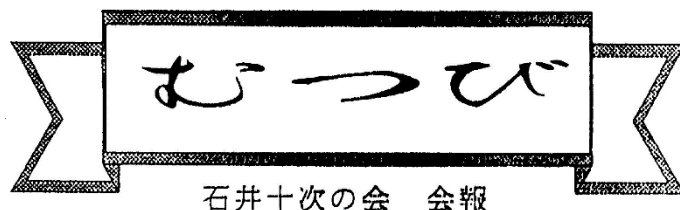


2023年
(令和5年)
3月10日



306号

「ただいま！」の言葉への覚悟

西都市立茶臼原小学校
校長 金丸 昭

「おかえりなさい！」

保護者や地域の方からいただいた嬉しい歓迎の言葉・・・。

「ただいま！！」

3年ぶりに茶臼原小に校長として赴任することとなり、感激で胸がいっぱいになりました。新任教頭として分からないことだらけの自分を、温かく迎え入れてくれ、育てていただいたこの学校に、全身全霊で恩返しをするチャンスを提供いただいたような気がしております。

本校は、職員玄関に入りますと、さすがに石井十次先生の教えが息づく茶臼原だけあって、石井十次先生の「肖像写真」「茶臼原憲法」「石井記念友愛社に関連する施設の写真」等、様々な掲示物が掲げられており、また、学校行事等でも「石井十次の歌」を子ども達が自然に口ずさむことができます。

学校経営ビジョンも、石井十次先生の教えが息づく「相信相愛」を教育理念とし、「かわわりと見届け」を基盤とした教育実践が伝統として引き継がれております。

今年度も職員一丸となってやり切れるスタッフに恵まれ、「共に学び、挑戦し続ける」ために、“チーム茶小”となって一体感のある教育活動が展開できる環境をいただき、身の引き締まる思いで4月をスタートしました。

さて、校長になっての朝の仕事の一つ。

通学路が見渡せる十字路に立って、子ども達の登校を待ちわびます。なだらかな台地の上にある学校からは、東西南北の通学路が見渡せます。ある地区に至っては1km先の様子さえ伺うことができ、子ども達の姿が時間とともに大きくなります。そして、お互いの声が聞こえる距離に近づくやいなや、「おはようございます！」と一人一人の大きな声が静かな台地いっぱいに響き渡ります。

これまでいろいろな学校で仕事をさせていただき、たくさん子ども達と

出会ってきましたが、こんなにあいさつの声を響かせることができる子ども達と出会うのは初めてです。この朝の登校見守りの時間を今は、たまらなく幸せに感じております。「心に染みる」という表現はこのことなのでしょう。子どもたちの元気なあいさつが、何故かじわっと染みてきて、元気と勇気をもたらしております。あらためて「あいさつの大切さ」を思い知らされるひとときです。

学校経営の最高責任者として校長職を拝命し、自分にできることは何かをまず考えました。さらに、石井十次先生の教えが息づく「相信相愛」の理念をどんな形で体现できるのかを自分なりに考えてもみました。

遅ればせながら、石井十次先生に関わる参考文献を読み直し、業績や威徳に触れ、「学校は何をすることか」「学校は何ができるのか」を具体的な姿としてイメージしました。

そして、自分で出した答えは、「地域に貢献できる学校づくり」でした。

ありきたりの言葉かもしれませんが、「地域あつての学校」であり、地域があつて、子どもが居て、そこに学校があることを経営ビジョンに明確に位置づけ、自ら夢を持ち、そのための改革と実践をしていく覚悟を決めました。

しかしながら、いざ、始まってみると、「校長職の多忙さ」に驚愕の日々です。分からないことだらけで、保管されている過去の文書を机いっぱい広げ、先輩校長に電話で御助言をいただいたり、直接、学校に足を運んで御指導をいただいたりしながら何とか乗り切ってきました。

まだまだ経験は無いが、やるしかない！

今日1日を無我夢中でやり抜いていれば、その積み重ねが、必ず明日につながると思ひ、
「今」を過ごしております。

十次先生の精神「当たって砕けろ」「思いついたら即実行」の言葉を胸に、茶臼原小の校長職をやり切らねばなりません。

しかし、校長がいくら頑張っても、組織全体が連帯感を持って、チームとして働いている実感を持たせなければいけないと考えます。

職員を信じて「待つこと 見守ること 認めること 褒めること 信頼すること 感謝すること」を大切にしてきました。

4月に職員と約束した3つのこと「①みんなの幸せ感 ②すべての人、もの、ことへの感謝 ③健康」が実現できたかをしっかり振り返り、次のステージに進んでいくための評価をする3月となります。

「ただいま！」の言葉にある「自らの覚悟」が試されます。

新しい大きなモニュメントの誕生(ご案内)

高鍋町駅前のロータリーに、彫刻家 田中等氏が制作した作品“MOON DANCE”が1月に完成し、この度設置された。田中氏の代表作として、国内外に設置されている“MOON DANCE”シリーズで、2つの半月が向き合う形を、心が通じ合う男女が踊る様子と重ねて表現している。

黒木敏之高鍋町長が推進中の、高鍋駅周辺の整備事業の一環として、高鍋町観光協会が、田中氏に作品制作を依頼。昨年の3月から原石重量20トンの大きな御影石と取り組んできた。そして見事な作品がようやく完成したのだ。

県内の田中氏の作品は、宮崎県総合文化公園の北側にある「石井十次」の銅像や、宮崎空港入口の「嵐の門」など多数ある。石井記念友愛社 児嶋草次郎理事長とは、高鍋高校3年間同じクラス以来の友人である。今回のモニュメントの完成を心からお祝い申し上げたい。

作品は早速、MR Tテレビやラジオでも放送された。UMKテレビでは、1月30日、夜中の作品設置映像が、放映され印象深かった。読売新聞には、2月5日付で「石の魅力で空間を豊かに」と大きく掲載された。

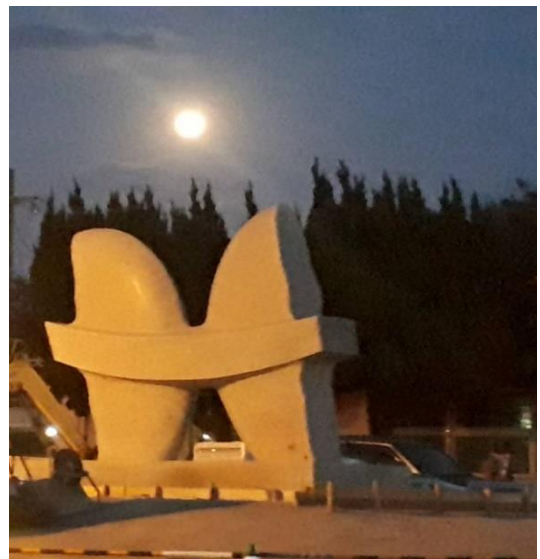
新しいモニュメントは、とても素晴らしい作品である。昼間に青い空をバックに写真を撮っても“MOON DANCE”は、素敵な写真となるが、夜、本物の月とコラボすると、ナイスショットで本当に美しい一枚となる。これからは、インスタ映えスポットとしても期待されるだろう。是非、多くの皆様にご覧いただきたい。

除幕式は3月1日に行われる予定である。

(編集委員 徳地 順子)



【 昼のMOON DANCE 】



【 夜のMOON DANCE 】

(先月のむつび305号に田中等氏の『 ひかりの墓地から「月の雫」へ 』が掲載されています。ご覧ください)

うちうち
編集委員会 内々の記(その1)

編集委員会 内々の記である。

編集委員会にとって令和4年度は特記すべき年度。

特記すべきことは二つある。

一つは編集委員メンバーとしてあらたに2名加入。黒木三鶴委員と西村さと子委員。

二つは、石川正樹委員著「石井十次を支えた先人たち」を発刊できたこと。

二人の編集委員は新人とは思えぬレベルで実力を発揮し続けている。また、「石井十次を支えた先人たち」は500部作成したが新聞掲載等の効果もあり、残部はすでに100部を切っている。増刷も検討しないと。

この特記すべき二つを祝するために忘年会や新年会を企画したが、コロナ禍に翻弄され続けことごとく中止。

編集委員長としては、「祝歓迎会・祝出版」を年度をまたぐ前に何としてでも実現させたい。

方舟館職員のアドバイスもあり「茶話会」として開催することにした。

かくして、2月17日の編集委員会終了後に場所を替えず和やかで楽しい雰囲気の中開催することができ大いに安堵した。

編集委員 竹之下 悟

《 お し ら せ 》

★新会員のご紹介（敬称略）

【都城市】若松 亮 【高原町】 汐崎 廣美 正手 久 高木 日美子

*ここまでの掲載者は編集等の都合により2月17日までのものとしています。

★現在、方舟館前の庭の梅が満開です。時々、メジロが蜜を求めてやってきます。この通信が皆様のお手元に届くころには、そろそろ桜も咲き始めているかもしれません。

どうぞ、お花見にお越しください。

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

〒884-0102宮崎県児湯郡木城町大字椎木644-1
社会福祉法人 石井記念友愛社後援会

石井十次の会

TEL/FAX 0983-32-4612

メール yuuaisya-jyuujinokai@ki.jo.jp

編集後記

★巻頭原稿は茶臼原小学校校長 金丸昭氏からいただきました。感謝します。令和4年度が終わります。むつび発行もコロナ禍にもかかわらずスムーズでした。ご協力くださったすべての方々に感謝します。

竹之下悟